

電気通信大学 平成18年度シラバス

授業科目名	物質工学演習B		
英文授業科目名	Exercises in Chemistry B		
開講年度	2006年度	開講年次	3年次
開講学期	6学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	1
科目区分	専門科目-学科専門科目-必修科目		
開講学科・専攻	量子・物質工学科		
担当教官名	三瓶、安井、和田		
居室	東6-708(三瓶)、東6-936(安井)、東1-105(和田)		

公開E-Mail	授業関連Webページ

【主題および達成目標】
<p>主として物理化学、分光学、無機化学分野の演習に加え、生命情報科学に関する演習を行う。</p> <p>実際に問題を解くことや、解析を行うことによって、これまでの授業で履修した内容の理解を深め応用力をつけることを主眼とする。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
物理化学、基礎量子論、分子分光学、無機物質工学、生物化学

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
特になし。

【教科書等】
参考書：履修しておくべき授業科目にあげた授業で使用した教科書。

【授業内容とその進め方】

担当教員と行う演習の内容は以下のとおりである。しかし、この順で授業を行うのではなく、授業の日程と当日担当する教員名は、後日知らせる。

1) 安井正憲 担当

物理化学、量子化学全般に関する演習

構造化学的な内容や分子分光学に関する演習

2) 和田節子 担当

無機物質化学に関する演習

3) 三瓶巖一 担当

生命情報科学に関する演習

生命情報データベースの検索とデータ取得、既存のプログラムを使用した生命情報解析。やり方を一通り説明した後に、課題に取り組んでもらう。

演習のスタイルは各教員で異なるが、ほとんどの場合、課題についてのプリントが配付され、レポート提出や黒板で解答を説明するなどが義務付けられている。演習の時は関連した授業の教科書や、電卓、グラフ用紙など、担当の教員が指示したものを持参すること。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

100%近い出席が必要条件(しかしそれだけでは十分条件ではない)である。

また、授業に遅刻しないようにすること。

成績は演習の解答やレポートまたはテストなどから各教員が成績判定し、それを総合して最終的に判定する。1人の教員から不可の判定があった場合は、最終成績も不可となる。

レポートの提出期限を守る。また再提出するよう指示された場合は必ず提出すること。

【オフィスアワー：授業相談】

各教員から指定された時間に相談に行くこと。

電気通信大学 平成18年度シラバス

【学生へのメッセージ】

演習問題を自分で解き、これまでの各教科を復習しながら、確実な理解を深めることが重要です。確実な知識は積み上げることができますが、不確かな知識は積みあがりません。理工系の開発や研究に携わる場合、不確かな部分は後で致命的な失敗へとつながります。演習を通じて確実な知識を積みあげましょう。

【その他】